

令和7年度進行管理・評価シート
名古屋市歴史的風致維持向上計画（令和6年3月18日認定）

口進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)

1 計画の実施・推進体制		1
--------------	-------	---

②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)

1 景観計画		2
--------	-------	---

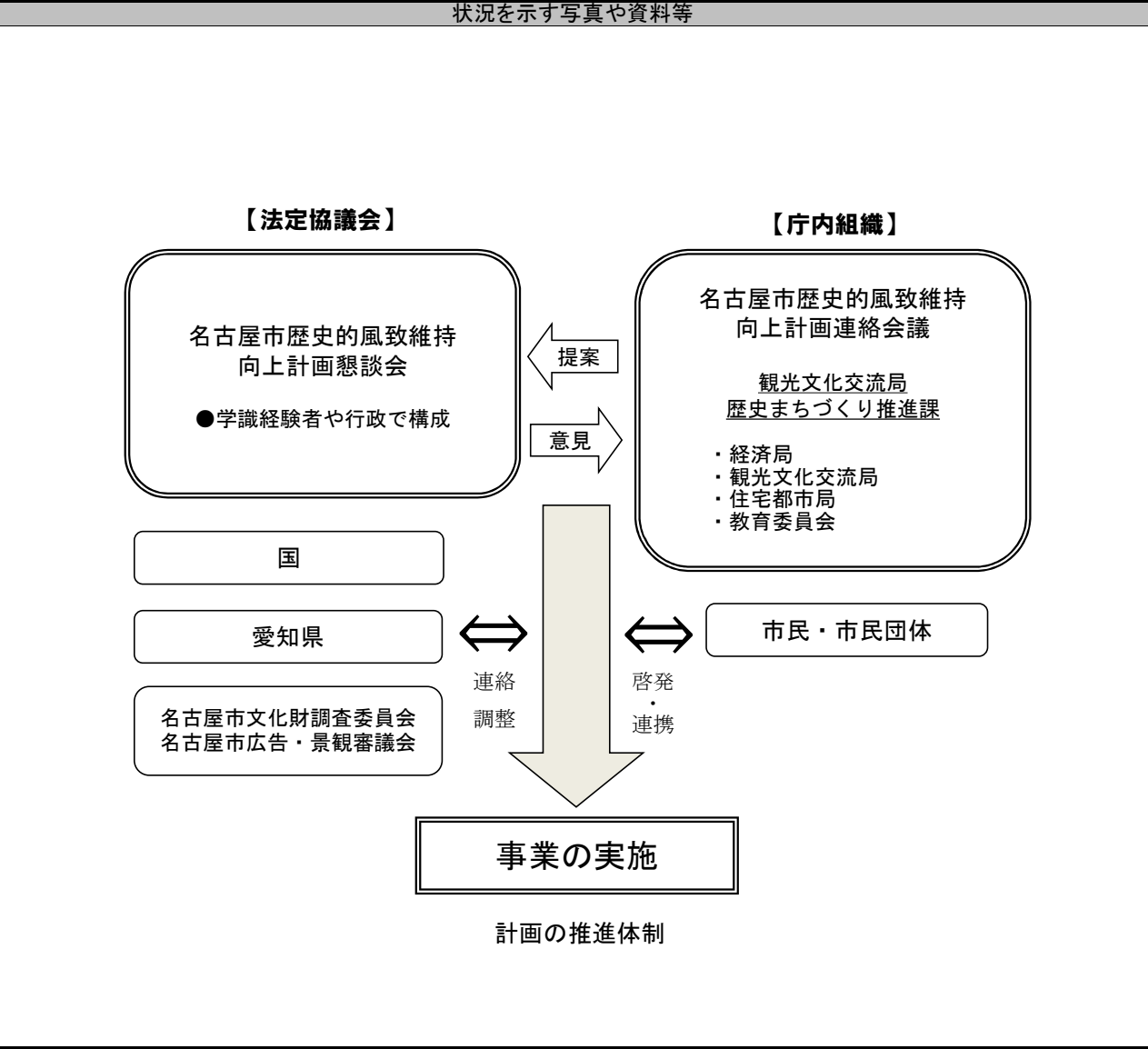
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)

1 名古屋城二之丸庭園の整備		3
2 名古屋城石垣の整備		4
3 名古屋城天守の木造復元		5
4 名古屋城本丸御殿障壁画復元模写		6
5 名古屋城本丸御殿障壁画保存修理		7
6 名古屋城植栽管理計画の策定		8
7 金シャチ横丁構想の推進		9
8 文化のみちの推進		10
9 歴史的町並み保存事業(白壁・主税・槇木地区)		11
10 東区の山車囃子・からくり競演		12
11 歴史的町並み保存事業(四間道地区)		13
12 県指定有形文化財伊藤家住宅の保存活用		14
13 栄地区まちづくりプロジェクトの推進(久屋大通公園)		15
14 名古屋まつりの開催		16
15 熱田神宮周辺まちづくりの推進		17
16 熱田区役所における歴史資料展示		18
17 志段味古墳群歴史の里の保存整備		19
18 志段味古墳群歴史の里の公開活用		20
19 伝統的建造物群保存地区保存事業		21
20 歴史的町並み保存事業(有松地区)		22
21 有松の歴史的建造物利活用事業者の支援		23
22 市指定有形文化財岡家住宅の保存活用		24
23 指定文化財(建造物・史跡等)の保存修理事業		25
24 指定有形文化財(無形文化財、有形・無形民俗文化財)の保存活用の支援		26
25 歴史的建造物の登録・認定		27
26 なごや歴まちびとの養成・派遣		28
27 史跡名勝標札、史跡散策案内板等の管理・設置		29
28 伝統産業若手技術者育成事業助成		30
29 歴史文化普及啓発事業		31
30 土曜日の教育活動の推進(「歴史体験学習」、 「伝統産業体験学習」(有松絞り体験))		32

④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)	
1 文化財調査、指定保存管理(活用)計画の策定、埋蔵文化財 の取り扱いに関する方針など	33
2 文化財の修理事業、文化財の周辺環境の整備事業、防災・防 犯に関する事業など	34
3 文化財に関する普及・啓発の取組、防災訓練の取組、民間団 体への助成・支援や連携・協力した取組など	35
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)	36
⑥その他(様式1-6)	37
□法定協議会等におけるコメントシート(様式2)	39

評価軸①-1
組織体制

項目		評価対象年度	令和7年度
		現在の状況	
歴史的風致維持向上計画の実施・推進体制		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
計画に記載している内容	観光文化交流局歴史まちづくり推進課及び教育委員会文化財保護課を中心とした庁内組織である「名古屋市歴史的風致維持向上計画連絡会議」と、学識経験者らで構成される「名古屋市歴史的風致維持向上計画懇談会」が連絡調整を行いながら事業を実施する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
令和8年3月に「名古屋市歴史的風致維持向上計画(第2期)」の3章方針変更及び6章の事業計画追加変更に係る庁内の連絡会議、及び懇談会を実施した。また令和8年5月に「令和7年度進捗管理・進行評価」に係る懇談会を実施した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		第2期計画策定以降の実施・推進体制を維持し、さらなる計画の推進及び懇談会における意見交換を強化していく。	



評価軸②

重点区域における良好な景観を形成する施策

		評価対象年度		令和7年度	
項目				現在の状況	
景観計画				☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
計画に記載している内容	都市景観形成地区における良好な景観形成、景観上重要な建造物等についての保全（景観重要建造物・景観重要樹木・都市景観重要建築物等）、屋外広告物の規制				
定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で					
景観条例及び景観計画に基づき、建築物や工作物等の新築・増改築等の行為に関して適正な規制及び誘導を行い、良好な景観形成に努めた。					
・都市景観形成地区における届出件数		[令和6年度]	185件	[令和7年度]	205件
・都市景観重要建築物等への助成		[令和6年度]	0件	[令和7年度]	0件
・屋外広告物許可		[令和6年度]	11,485件	[令和7年度]	7,761件
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）			
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		・地域の特色に合わせた景観形成基準等に基づく助言・指導の実施。 ・四間道都市景観形成地区指定をきっかけとし、路地や町屋などの特徴的な街並みを持つ那古野一丁目地区のさらなる景観まちづくりの取組みを推進。			
状況を示す写真や資料等					

〇名古屋市景観計画

「歴史の深みを感じさせるまち」を始めとする4つの目指すべき都市のイメージの実現を図ることを全体方針に掲げ、良好な景観の形成を図っている。

1. 都市景観形成地区(8地区)

届出等の制度により景観形成基準等への適合を確認し、助言・指導等を実施。(建築物・工作物/広告物)

【令和7年度の届出等の状況(件数)】

地区名	建築物・工作物	広告物	地区名	建築物・工作物	広告物
久屋大通	13	19	築地	3	5
広小路・大津通	12	57	今池	5	12
名古屋駅	17	29	白壁・主税・槿木	9	0
四谷・山手通	16	6	四間道	2	0

合計205件

2. 大規模建築物等

届出等の制度により景観形成基準等への適合を確認し、助言・指導等を実施。

【令和7年度の届出等の状況】 建築物・工作物 221件、広告物 73件

3. 眺望景観の保全

平成31年4月より名古屋城眺望景観保全エリアと景観形成基準を新たに設け、大規模建築物等の届出等の制度により、助言・指導等を実施。

【令和7年度の届出等の状況】 建築物 5件(内通知0件)

4. 屋外広告物

都市景観形成地区内の屋外広告物及び大規模な屋外広告物について、色彩などの制限を定め、屋外広告物条例による、表示や設置に関する規制と合わせて助言・指導を実施。

【令和7年度の届出等の状況】 広告物 201件

〇那古野一丁目地区の景観まちづくり

1. 景観まちづくりの推進

①事業の概要

・平成31年4月、四間道都市景観形成地区制度の運用を開始した。
 そして令和3年6月、「那古野一丁目地区景観協定」が地元において締結され、運用が始まった。

②経緯

- ・地元勉強会・準備会開催(平成30年～令和2年6月計13回)
- ・推進委員会の開催(令和2年7月～計30回)
- ・推進委員会に都市景観市民団体助成金交付(令和3年～計5回)

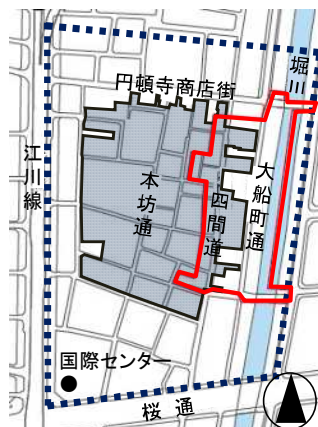
2. 街なみ環境整備事業の推進

①事業の概要

・四間道界隈の魅力向上を図るため、国の補助制度である街なみ環境整備事業の制度を活用し、伊藤家住宅の保存・活用のための整備、建物等の修景施設整備の助成、電線類地中化等の実現に向けた検討を実施。

②今後の進め方

- ・四間道における電線類地中化等の実現に向けた検討や関係機関等との協議・調整の実施。
- ・四間道都市景観形成地区および那古野一丁目地区景観協定区域における修景施設整備助成の実施。



街なみ環境整備事業対象区域
 四間道都市景観形成地区
 那古野一丁目地区景観協定区域

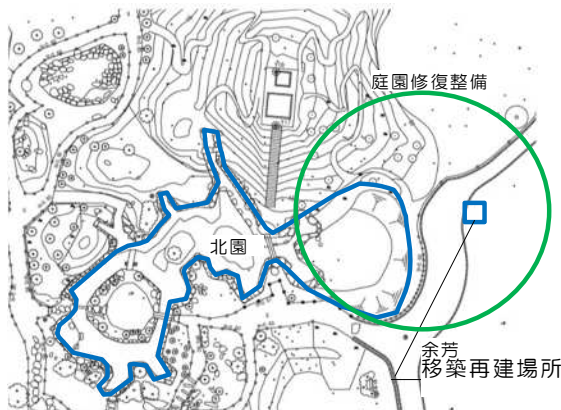


推進委員会の様子

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和7年度 現在の状況
名古屋城二之丸庭園の整備			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成25年度～		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	名勝名古屋城二之丸庭園整備計画に基づいた庭園全体の一体的かつ計画的な整備に取り組む。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
平成25・26年度に石組の崩壊を招く樹木の伐採、平成26年度に権現山並びに笹巻山の修理を行った。 平成27年度に権現山山頂の社跡の遺構表示等、平成28年度に栄螺山の盛土修復等を行った。 平成29年度は北園池の石組等の修復を行った。また、平成30年2月13日名勝の追加指定を受けた。 平成30年度は余芳移築再建予定地周辺の一次造成及び北園池の石組の修理を行った。 令和元年度～令和3年度に北園池の石組修復、園路の飛石の修理等を行い、令和4年3月名勝名古屋城二之丸庭園整備計画を策定した。 平成25年度以降、二之丸庭園の文化的価値と魅力の向上を目的として発掘調査を実施している。 令和6年度は、令和4年度より引き続き行ってきた、余芳移築再建が完了した。また、令和4年度から行っている北園池護岸の補修及び発掘調査について継続的に行った。 令和7年度は、余芳周辺の庭園の整備、北園池護岸の補修及び発掘調査について継続的に行った。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		名勝名古屋城二之丸庭園の往時の景観を取り戻すため、庭園の修復・保存整備を進める。	
状況を示す写真や資料等			



二之丸庭園平面図(部分)



余芳周辺庭園修復整備工事



護岸ひび割れ修理



発掘調査状況

評価軸③-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和7年度 現在の状況
名古屋城石垣の整備		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 昭和50年度～

支援事業名 国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金、国宝重要文化財等防災施設整備費補助金

計画に記載している内容 特別史跡名古屋城跡の重要な要素である名古屋城石垣について、修復工事等を実施し、歴史的景観を保全する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

大きな孕みがみられた本丸搦手馬出(からめてうまだし)周辺石垣について平成14年度から継続して修復工事を行っている。平成25年度までは、石垣の取り外しを実施した。平成26、27年度は、根石の調査を実施した。平成28、29年度は、石垣前面の地盤補強工事として杵工を実施した。平成25～28年度に、修復現場見学会を開催した。平成30年度は、平成26年度から行った調査や地盤補強のために中断していた石垣の取り外しを再開し最下段までの取外しを実施した。令和元年度は石材補修工、仮設通路工、石材調査等を実施し、石垣の積み直しに向けた準備が進んだ。令和2年度に、逆石調査、石材劣化調査、石材補修工等を実施し、積み直し基本方針を、令和3年度は積み直し基本計画を策定した。令和4年度より積み直し基本計画に基づき積み直しを開始し、令和7年度も引き続き積み直しを実施した。

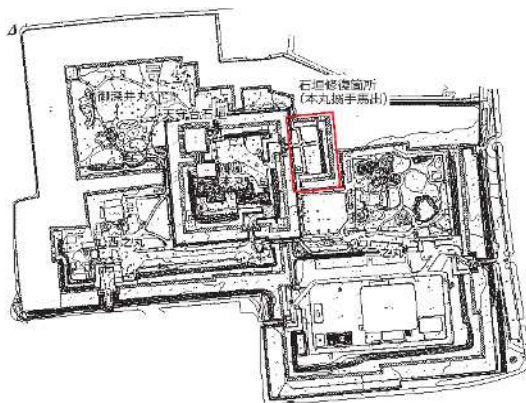
進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

☒計画どおり進捗している
☐計画どおり進捗していない

特別史跡名古屋城跡の本質的価値を構成する石垣を対象とする整備事業であり、慎重に進めていく必要があり、早期の積み直し完了に向けて、関係機関と調整しながら積み直し工事を進める。

状況を示す写真や資料等



石垣整備箇所(本丸搦手馬出)



修復工事前の石垣(平成14年度)



修復工事中の石垣(令和7年度末)

評価軸③-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和7年度 現在の状況
名古屋城天守の木造復元		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 平成29年度～

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容
 本丸整備基本構想における「近世期最高水準の技術により築城された名古屋城の象徴である本丸の姿を現代に再現する」という基本理念のもと、既に木造復元した本丸御殿に続けて、木造天守の復元を進めることで、特別史跡名古屋城跡の本質的価値向上と、より一層の理解促進を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

令和7年度は、実施設計にて昇降技術開発に伴う建物本体側の構造補強や防災・避難計画上の検討、木材の製材(木材の保管)、昇降技術開発、天守台北側の御深井丸側石垣についての保存対策工事、鵜の首(小天守西)石垣の前面に対する補強設計、石垣の変動を観測する石垣モニタリングを実施した。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

■計画どおり進捗している

□計画どおり進捗していない

天守を往時の姿に復元し、近世期の本丸を実感できる歴史的・文化的空間をよみがえらせ、広く公開をしていくことで、名古屋城の歴史的・文化的価値と魅力の向上を図る。

状況を示す写真や資料等

木材保管庫の様子



石垣保存対策工事の様子



評価軸③-4

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和7年度 現在の状況
名古屋城本丸御殿障壁画復元模写		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 平成4年度～

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 国の重要文化財に指定されている名古屋城旧本丸御殿障壁画等を参考に、400年前の鮮やかな色を蘇らせるべく、描かれた当時の状態を再現する「復元模写」を制作し、本丸御殿復元時に御殿内に取り付けて展示する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

令和7年度は、湯殿書院入側の壁貼付絵や上洛殿一之間の天井絵など48面を制作した。制作した障壁画を本丸御殿内に取り付けて展示し、名古屋城の歴史的魅力的向上が図られ、歴史的風致の維持向上に寄与している。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	史実に忠実な障壁画復元模写の制作のため、重要文化財障壁画の熟覧等を行いながら事業を進める。

状況を示す写真や資料等

【令和7年度 制作画面(一部)】



上洛殿一之間天井絵



黒木書院一之間壁貼付絵



作業風景

(単位:面)

制作実績	襖絵等	天井	合計
H4～R6	530	470	1,000
R7	13	35	48
合計	543	505	1,048

評価軸③-5

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和7年度
		現在の状況	
名古屋城本丸御殿障壁画保存修理		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	昭和61年度～		
支援事業名	国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金		
計画に記載している内容	国の重要文化財に指定されている名古屋城旧本丸御殿障壁画について、絵の具の剥落、虫害、下地の傷みなど損傷を生じているものを順次修理し、保存・継承を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
平成28年度は、上洛殿の天井板絵28面の保存修理、上洛殿の襖絵8面、玄関等の杉戸絵8面の点検修理を行った。 平成29年度は、上洛殿の天井板絵26面の保存修理、玄関の障子腰貼付絵など18面の点検修理を行った。 平成30年度は、上洛殿の天井板絵25面の保存修理、上洛殿や表書院の襖絵など16面の点検修理を行った。 令和元年度は、上洛殿の天井板絵29面の保存修理、黒木書院や玄関の襖絵15面の点検修理を行った。 令和2年度は、上洛殿の天井板絵26面の保存修理、対面所の襖絵12面の点検修理を行った。 令和3年度は、上洛殿の天井板絵28面の保存修理、対面所の襖絵など14面の点検修理を行った。 令和4年度は、上洛殿の天井板絵27面の保存修理、対面所の襖絵など17面の点検修理を行った。 令和5年度は、上洛殿の天井板絵27面の保存修理、湯殿書院や上洛殿の襖絵など16面の点検修理を行った。 令和6年度は、上洛殿の天井板絵26面の保存修理、上洛殿や表書院の襖絵など24面の点検修理を行った。 令和7年度は、梅之間と上御膳所の襖絵など10面の点検修理を行った。 重要文化財である名古屋城本丸御殿障壁画の保存修理を行うことで、貴重な文化財の保存・継承することにより、名古屋城の歴史的魅力の向上が図られ、歴史的風致の維持向上に寄与している。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	今後の展示・貸し出しの予定を勘案し、計画的に修理を行う。		
状況を示す写真や資料等			

【令和7年度 修理画面(一部)】



梅之間 襖絵 雪中小禽図(修理後)



上御膳所上段之間 襖絵 花卉図(修理後)



上御膳所上之間 襖絵 梅竹雀図(修理後)



上御膳所上之間 襖絵 梅竹雀図(修理後)

評価軸③-6

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和7年度 現在の状況
名古屋城植栽管理計画の策定		☒ 実施済 ☐ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 令和4年度～令和6年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 名古屋城の城郭としての風格を形成する植栽となるよう管理方針を定め、計画的な植栽管理を行うため、周辺の植栽にも留意した植栽管理方針を策定する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

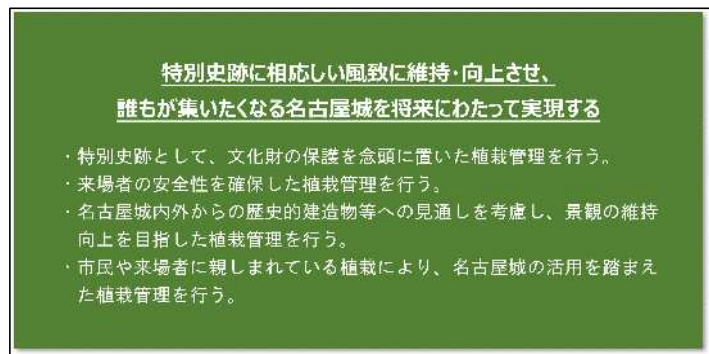
名古屋城植栽管理計画を令和7年3月4日に策定し、令和7年度内に名古屋城植栽管理計画の冊子を市政情報センター等に配架、名古屋市公式ウェブサイトにも名古屋城植栽管理計画の掲載手続きを行った。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	策定した計画に基づき、有識者の意見を伺いながら適切に管理を進めていく。

状況を示す写真や資料等



名古屋城植栽管理計画冊子の表紙



植栽管理計画の理念

1 名古屋城の植栽が抱える課題の解決に向けた植栽管理

現在の植栽管理では、定期的な高木の伐採や剪定は行われていない。中木や低木においては現在の植栽管理でも刈込や剪定を実施しているが、刈成り成分の処理に限られている。その結果、名古屋城全体の植栽は成長し過ぎており、生育状況が良好でない樹木も散見される。これらの樹木は、将来的に文化財に影響を及ぼす恐れや来場者の安全性を脅かす可能性があるため、植栽の現状から抽出される課題の解決に向けた植栽管理を行う。

2 各地区の特性を踏まえた植栽管理

名古屋城は、植栽の本数が多く、全体の植栽を一度に対処することが困難であるため、植栽管理の実施範囲を区切り、場所ごとに適した植栽管理を行う。なお、名古屋城は、「現存する文化財が見せる近世城郭の姿」と、「多くの来場者で賑わう現代の憩いの場」が融合した空間であり、地区ごとに文化財の状況や現在の活用実態、植栽の状況が異なるため、植栽管理の実施範囲の区分は、「保存計画計画」で定められた地区区分を基準としつつも、必要に応じて複数の地区にまたがること、あるいは地区を細分化することを含めて、柔軟に判断する。

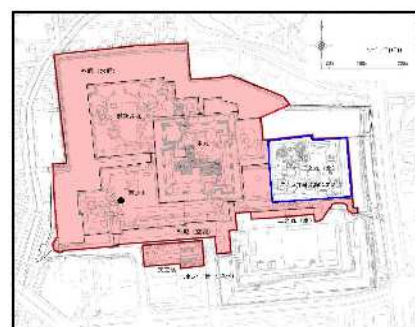
3 継続的な植栽管理

植物は絶えず成長を続けるものであるため、反復的に整備を行いつつ、管理方法等を評価・改善しながら、苗木の成長に合わせた適切な管理を続ける必要があることを踏まえて、継続的な植栽管理を行う。

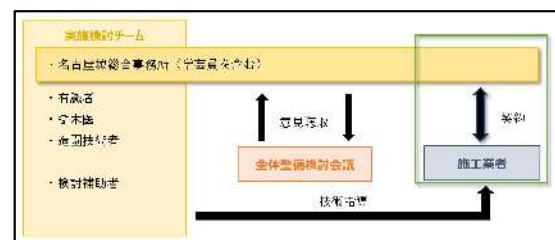
4 名古屋城での植栽管理に必要な知識と技術を有する植栽管理体制の構築

名古屋城の植栽管理では、文化財の保護や生物の生態等のさまざまな視点を踏まえた柔軟かつ適切な対応が必要であるため、名古屋城での植栽管理に必要な知識と技術を有する植栽管理体制を構築する。

植栽管理の基本方針



植栽管理計画の対象範囲



植栽管理計画の実施体制

評価軸③-7

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和7年度 現在の状況
金シャチ横丁構想の推進		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 平成24年度～

支援事業名 社会資本整備総合交付金

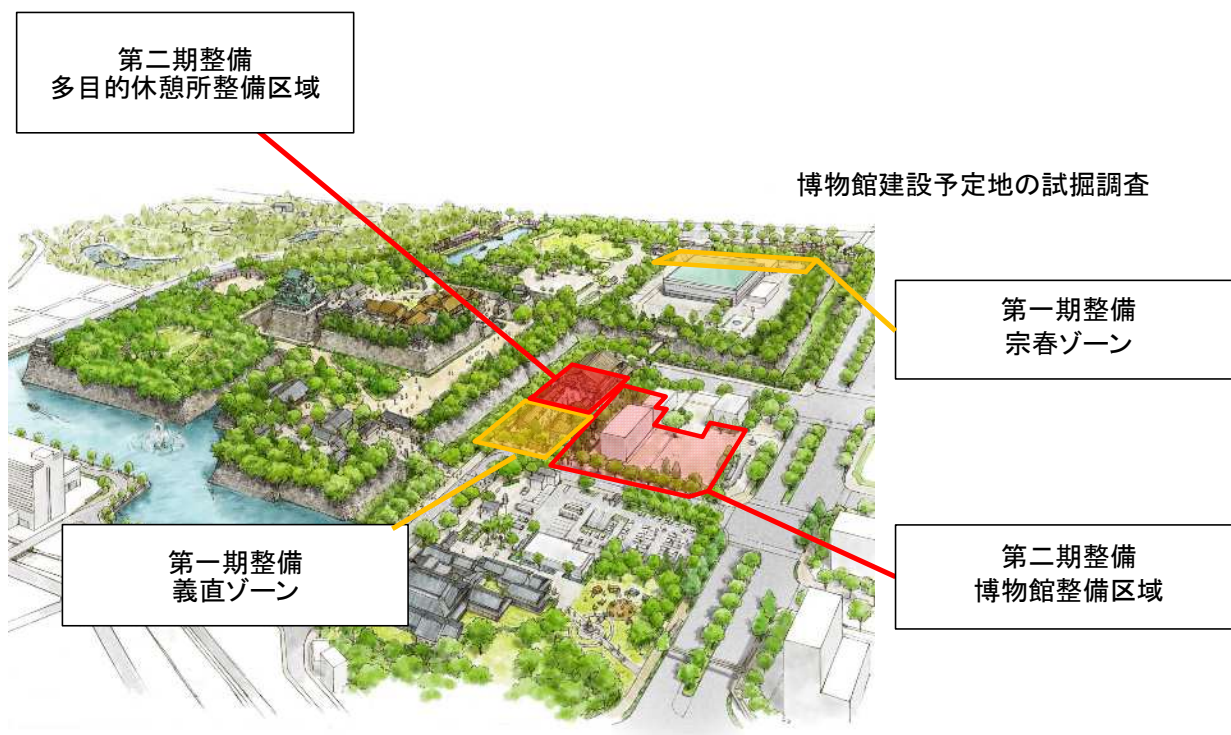
計画に記載している内容
名古屋の食文化等を堪能できる第一期整備事業(H30年開業)に引き続き、第二期整備を実施する。
また、芝居等を鑑賞しながら食事をとり、くつろぐことができる休憩施設と、博物館を中心とした知と観光の総合ゾーンを整備する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

平成24年度に「世界の金シャチ横丁(仮称)基本構想を策定し、平成30年度には第1期整備として金シャチ横丁義直ゾーン、宗春ゾーンが開業した。
令和2年度は芝居小屋風多目的施設建築整備構想、令和4年度は博物館ゾーン整備基本構想を策定した。
令和7年度は多目的休憩所の設備・機能に関する調査検討と、博物館ゾーンの試掘調査及び基本計画策定に向けた調査検討を行った。
※事業シート内容の修正(軽微な変更)について調整中

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	名古屋城及びその周辺の魅力の向上と賑わいの創出、魅力発信の目的を達成できるよう、着実に整備を進める。

状況を示す写真や資料等



評価軸③-8

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和7年度 現在の状況
文化のみのちの推進		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 平成11年度～

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 名古屋城から徳川園に至る一帯は「文化のみのち」として、貴重な建築遺産の保存・活用を進めている。文化のみのち二葉館・文化のみのち榎木館を資料展示・文化活動などの拠点施設として、指定管理制度によって管理運営している。「歩こう！文化のみのち」などのイベントを通じて、建築遺産の保存・活用に対する市民意識の高揚や文化活動の促進につなげていく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

文化のみのち二葉館は令和7年度に開館21周年(2月8日)、文化のみのち榎木館は開館16周年(7月17日)を迎えた。令和7年度の文化のみのち二葉館入館者数は32,473人(対前年比103%)、文化のみのち榎木館は26,787人(対前年比115%)と増加傾向にあり、インバウンド入館者数も増えてきている。今年度は本市が公開活用している旧春田鉄次郎邸が新たに国登録文化財に登録される等の進展も見られた。また毎年開催している、文化のみのちの歴史的建造物を巡るイベント「歩こう！文化のみのち」を令和7年度も実施した。

・期間: 令和7年11月1日(土)～25日(火)

・参加者数(各施設に設置してあるクイズに10問以上答え、景品に応募した人数): 509人

・連携施設: 30施設

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	11月に「歩こう！文化のみのちクイズラリー2025」を約1か月間、今年度も実施した。指定管理者の努力等により、文化のみのち施設の入館者数は増加傾向にあり、今後も施設間やエリア連携を強化し、イベントや歴史的建造物の保存・活用を通じて文化のみのちを推進していく。

状況を示す写真や資料等

【文化のみのちの主な施設】



文化のみのち二葉館



文化のみのち榎木館



旧春田鉄次郎邸



旧豊田佐助邸



【文化のみのち二葉館】

「ふたばの日」

イベント時の様子

令和8年2月8日(日)

入館者数: 615人



【実施イベント】

「歩こう！文化のみのちクイズラリー2025」
 令和7年11月1日(土)～25日(火)
 参加者数: 509人



【企画事業数】(令和7年度)

文化のみのち二葉館 47事業
 文化のみのち榎木館 17事業

【文化のみのち榎木館】

「建築100周年企画

華道家 假屋崎省吾の世界展

in 文化のみのち榎木館」

展示の様子

令和7年4月4日(金)～16日(水)

期間中入館者数: 3,490人

評価軸③-9

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和7年度 現在の状況
歴史的町並み保存事業(白壁・主税・榎木地区)		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 昭和60年度～

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 白壁・主税・榎木地区において、町並み保存地区及び伝統的建造物の指定を行うとともに、保存地区内の建造物の修理・修景等に対する技術的支援及び経済的支援(助成)を継続して行う。また、この地区の特徴である門塀や緑と調和するサイン、案内板、解説板等の整備を実施する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

伝統的建造物は修理基準に、伝統的建造物以外の建造物は修景基準にそれぞれ基づいた工事に伴う費用の一部を助成し、あわせて保存地区において、建築行為等を行おうとするものに対し届出を要請し、この際に専門的・技術的な指導・助言を行うことで、町並みを維持・保全して良好な景観を守っている。令和7年度の助成実績は無し。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

☒計画どおり進捗している
☐計画どおり進捗していない

保存地区内の町並みの維持・保全のため、今後も経済的・技術的支援を実施する。また、設置済の案内板等について適切に維持管理し、劣化等が見られた場合は補修等の検討を行う。

状況を示す写真や資料等

◆白壁・主税・榎木町並み保存地区

江戸時代の武家屋敷の地割を残しており、門・塀と緑樹からなる屋敷景観と戦前の優れた近代建築が残る。

①【補助件数】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	累計(昭和60年～)
伝統的建造物の修理	0	0	1	0	0	41
伝統的建造物以外の建造物の修景	0	0	0	0	0	13
必要物件の整備	0	0	0	0	0	1
計	0	0	1	0	0	55

②【指導・助言件数(届出件数)】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
伝統的建造物の修理	0	0	1	0	0
伝統的建造物以外の建造物の修景	0	0	0	0	0
必要物件の整備	0	0	0	0	0
その他の建築行為	3	5	5	3	6
計	3	5	6	3	6

①令和7年度 町並み保存補助事業

令和7年度の補助実績は無し。

②令和7年度 町並み保存地区内現状変更行為届出

建物除却と除却後のマンション新築等及び電柱の移設。

引き続き建築行為の相談があった際には町並み保存地区のあらましを手交し、連続した門・塀と塀越しの木立の緑が豊かな町並みの特性について説明し、協力を求めている。

評価軸③-10

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和7年度 現在の状況
東区の山車囃子・からくり競演		☒ 実施済 ☐ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 昭和55年度～

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 徳川園において山車文化を広く市民に知ってもらうため、東区の山車2両にてお囃子の演奏とからくりの披露を行っている。またNPO法人東区山車まつり振興会による山車囃子・からくり競演を開催している。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

令和7年度は、徳川園のガーデンホールにて、からくりやお囃子の披露を行った(鹿子神車、河水車の皆様による)。屋内でゆったり参加することができ、当日は徳川園の庭園開園記念日として無料開放を行っていたこともあり、非常に多くのお客様でにぎわった。約400人が参加。アンケートの回答では、8割以上が「とてもよかった」「よかった」と回答いただき、具体的には

- ・「あまり見たことがなかったのでとても良かった」
- ・「若い世代に文化がしっかりと継承されていて素晴らしいと思った」
- ・「なかなか近くで見られないので、今回は貴重な機会だった」

などの好評を頂いた。

同イベントはもとより、毎年6月の第一土日に開催する筒井町天王祭・出来町天王祭での山車の曳行、同10月の名古屋まつりや東区区民まつりでの山車の曳行などの伝統行事・イベントを通して、東区における山車文化の更なる普及が図られている。併せて山車文化の普及を目的として活動している「NPO法人東区山車まつり振興会」のホームページ閲覧数も順調に増加傾向にある。

進捗状況 ※計画年度との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

■計画どおり進捗している
□計画どおり進捗していない

徳川園が無料開放される「文化の日」にあわせた東区の山車行事であり、より多くの方に徳川園へ足を運び、庭園などとあわせて東区の山車文化を感じていただけるよう、安定的な集客ができる仕組みづくりが必要。徳川園側の催し物などとのタイアップやチラシ配布の工夫などに継続的に努める。

状況を示す写真や資料等



左 : 区役所が作成したチラシ
右 : からくり競演の様子

評価軸③-11

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和7年度 現在の状況
歴史的町並み保存事業(四間道地区)		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 昭和61年度～

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 四間道地区において、町並み保存地区及び伝統的建造物の指定を行うとともに、保存地区内の建造物の修理・修景等に対する技術的支援及び経済的支援(助成)を継続して行う。また、地区の歴史的環境に配慮した道路環境整備を実施するとともに、サイン、案内板、解説板等の整備を実施する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

伝統的建造物は修理基準に、伝統的建造物以外の建造物は修景基準にそれぞれ基づいた工事に伴う費用の一部を助成し、町並みを維持・保全して良好な景観を守っている。
保存地区において建築行為等を行おうとするものに対し届出を要請し、この際に専門的・技術的な指導・助言を行う。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	保存地区内の町並みの維持・保全のため、今後も経済的・技術的支援を実施する。また、設置済の案内板等について適切に維持管理し、劣化等が見られた場合は補修等の検討を行う。

状況を示す写真や資料等

◆四間道町並み保存地区

慶長15年に始まった清州越しにともなつてつくられた商人町で、土蔵群と町家が堀川の水運を利用して隆盛を誇った清州越し商人の栄華を今に伝える。

①【補助件数】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	累計(昭和61年～)
伝統的建造物の修理	5	1	1	0	0	69
伝統的建造物以外の建造物の修景	0	0	0	0	1	18
必要物件の整備	0	0	0	0	0	6
計	5	1	1	0	1	93

②【指導・助言件数(届出件数)】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
伝統的建造物の修理	2	0	1	0	0
伝統的建造物以外の建造物の修景	0	1	0	0	1
必要物件の整備	0	0	0	0	0
その他の建築行為	2	1	1	1	2
計	4	2	2	1	3

①令和7年度 町並み保存補助事業

令和7年度の補助実績は1件。

②令和7年度 町並み保存地区内現状変更行為届出

継続工事の、緑政土木局による堀川護岸整備工事と附随する電柱移設。
(施工範囲が広いので毎年工区ごとに届出を行う。)
貸店舗の新築。(修景補助対象物件)

項目		評価対象年度	令和7年度 現在の状況
県指定有形文化財伊藤家住宅の保存活用			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	令和2年度～令和14年度		
支援事業名	社会資本整備総合交付金		
計画に記載している内容	四間道地区における市民意識の高揚を図る拠点施設として、堀川水運を利用した城下町商家の代表である伊藤家住宅を整備する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
【主な経緯】 令和2年度 伊藤家住宅取得 令和3年度 保存活用計画の策定 令和5年度 保存活用計画の認定取得・修理整備基本計画策定・細工倉及び西倉解体保存工事実施設計 令和6年度 細工倉及び西倉解体保存工事着手・敷地内遺構調査 【令和7年度の取組み】 ・細工倉及び西倉解体保存工事 ・主屋南座敷増築棟取りこわしその他工事 ・主屋修理その他設計(実施設計) ・敷地内遺構調査 ・暫定活用(納涼打ち水大作戦)			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		県指定文化財伊藤家住宅の一般公開に向け、保存活用計画及び修理整備基本計画に基づき、実施設計及び工事を進める。	

状況を示す写真や資料等



細工倉及び西倉解体保存工事



主屋南座敷増築棟取りこわしその他工事



敷地内遺構調査



暫定活用(納涼打ち水大作戦)

評価軸③-13

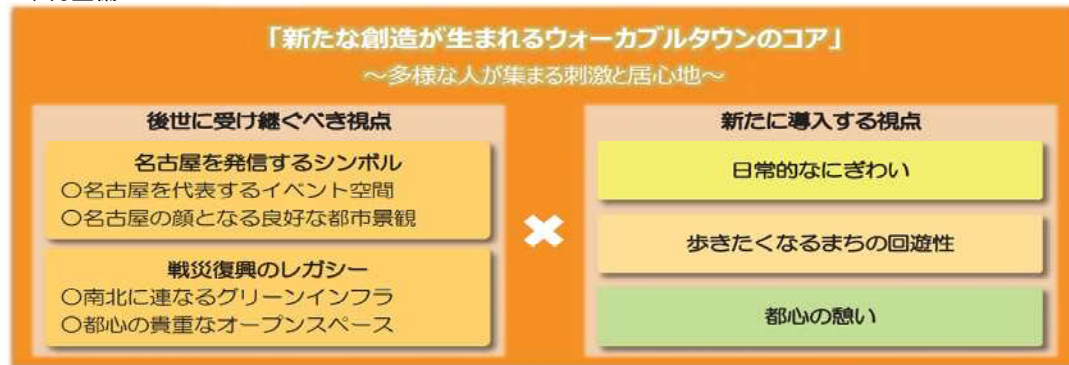
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和7年度 現在の状況
栄地区まちづくりプロジェクトの推進(久屋大通公園)			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成26年度～		
支援事業名	国庫補助事業(社会資本整備総合交付金事業(都市公園等事業)、官民連携による地域活性化のための基盤整備推進支援事業)及び市単独事業		
計画に記載している内容	令和2年に北エリア・テレビ塔エリアが「Hisaya-odori Park」として開園。南エリアは「久屋大通のあり方」の提言を踏まえ、事業化に向けた再整備プランの検討を進めていく。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
久屋大通の再生において、北エリア・テレビ塔エリアでは令和2年度に開業した「Hisaya-odori Park」の適切な管理運営、賑わいの創出に取り組んだ。また、南エリアでは、令和2年3月に久屋大通再生有識者懇談会より受領した「久屋大通のあり方(南エリア部分)」の提言や令和7年1月から2月に実施した市民意見募集をふまえ、南エリアに必要な機能と整備や管理運営に向けた基本的な考え方をまとめた「久屋大通(南エリア)再整備構想」を策定した。令和7年度は、「久屋大通(南エリア)再整備構想」に基づき、事業化に向けた検討調査を実施した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		南エリアについて、事業化に向けた検討調査を実施する。	
状況を示す写真や資料等			

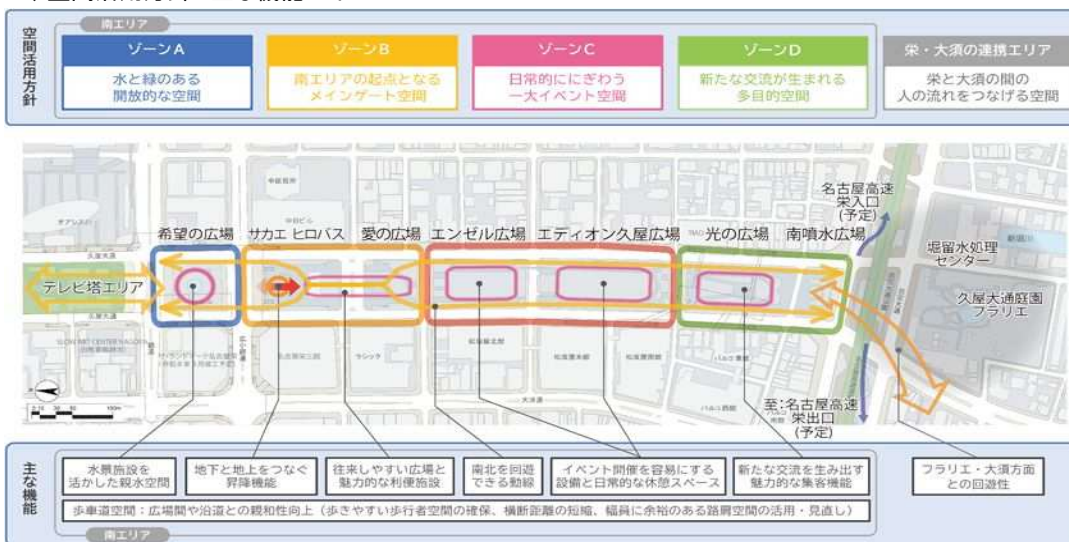
- 令和2年9月18日 「Hisaya-odori Park」の開業
- 令和3年3月29日 第11回久屋大通再生有識者懇談会の開催
- 令和7年3月24日 「久屋大通(南エリア)再整備構想」の策定

○久屋大通(南エリア)再整備構想より掲載

◇再整備コンセプト



◇空間活用方針と主な機能のイメージ



評価軸③-14

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和7年度 現在の状況
名古屋まつり		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 昭和30年度～

支援事業名 市単独事業（名古屋市、愛知県、名古屋商工会議所を構成員とする名古屋まつり協進会で実施）

計画に記載している内容 昭和30年に戦災復興を祝して始まり、山車揃や郷土英傑行列など名古屋の歴史にちなむ催しも多い名古屋まつりを継続して開催する。

定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で

名古屋まつりを開催し、多くの市民及び本市来訪者等に、市の伝統・文化・魅力に触れていただくなど、歴史的風致の維持向上に寄与した。

令和8年度(第72回)名古屋まつりは10月17日(土)・18日(日)を中心に開催。

【令和7年度の主な実施事業】

- ・郷土英傑行列を始めとした行列
- ・久屋大通公園を中心とした会場行事

【人出】

令和7年度 176万人

令和6年度 127万人(雨天等により、土曜日の行列などを中止)

令和5年度 167万人

令和4年度 125万人(新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、規模を縮小し、感染防止策を徹底しながら開催)

令和3年度 中止(新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止)

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	令和7年度は、土日両日とも行列行事を実施し、昨年度より多くの来場者に観覧していただいた。今後も、まつりを通じて名古屋の伝統、文化、魅力に触れてもらうことを目的に計画的に実施していく。

状況を示す写真や資料等



行列行事：山車揃
(令和7年10月19日)



行列行事：郷土英傑行列
(令和7年10月19日)



会場行事：久屋大通公園会場
(令和7年10月19日)



イベントマップ
(令和7年10月18日・19日)

評価軸③-15

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和7年度 現在の状況
熱田神宮周辺まちづくりの推進		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 令和5年度～

支援事業名 国庫補助事業(官民連携まちなか再生推進事業)及び市単独事業

計画に記載している内容 熱田神宮周辺における宮の渡しや宿場跡、白鳥庭園などエリア全体のまちづくりを推進し、熱田区役所南地区開発の事業化により名所づくりを強化していく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

熱田神宮周辺エリアのまちづくりを官民連携で進めるため「熱田神宮周辺エリアプラットフォーム」が令和7年1月に設立され、まちづくりの方針や将来像等を関係者で共有するための「熱田神宮周辺まちづくり未来ビジョン」が同年3月に公表された。令和7年度には、当該未来ビジョンを実現するための具体的な取組みをアクションプログラムとして取りまとめられ、令和8年3月に公表された。

また、熱田区役所南地区開発については、地区内権利者を対象として事業化に向けた検討状況説明会が令和7年7月に開催され、アンケート調査を実施するとともに、地区内の主要な法人地権者と事業化検討のための準備組織構築に向けた協議が開始された。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

■計画どおり進捗している
☐計画どおり進捗していない

アクションプログラムに基づくエリアプラットフォームの取組みを支援する。
 熱田区役所南地区の主要な法人地権者と再開発にむけた準備組織を構築し、再開発基本計画の検討に取り掛かる。

状況を示す写真や資料等

- 令和7年7月3日、7日 再開発に向けた検討状況についての地区内権利者説明会の開催
- 令和8年3月27日 「熱田神宮周辺まちづくり未来ビジョン」アクションプログラムの公表

権利者説明会の様子



(令和7年7月3日)



(令和7年7月7日)

権利者アンケートの結果

全権利者(131権利者)のうち、64権利者から回答あり。

(設問1)市街再開発事業の実施についてお考えを教えてください。

回答1:市街地再開発事業の実施を希望する	51.6%
回答2:生活再建等の条件が整うなら、実施を希望する	46.8%
回答3:市街地再開発事業の実施は希望しない	1.6%

(設問2)今後、市街地再開発事業を事業化するには、どのように事業を進めるのが望ましいと考えますか。

回答1:地区内の権利者全員で施行主体を組織したい	10.9%
回答2:名古屋市などの大規模地権者が主体となしてほしい	51.6%
回答3:現時点では分からない	37.5%

⇒ アンケート結果に基づき、再開発検討のための組織構築に向け地区内の主要な法人地権者と協議を開始。

アクション
プログラムの公表

下記URLからダウンロードできます。

<https://www.atsuta-am.com/ap/platform/>

評価軸③-16

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和7年度 現在の状況
熱田区役所における歴史資料展示			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間	平成22年度～
支援事業名	市単独事業
計画に記載している内容	熱田区役所1階に「熱田区歴史資料展示コーナー」を設け、故福島重夫氏等から寄贈された歴史資料を展示する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

令和7年度は第29回展示「名古屋の博覧会」と第30回展示「浮世絵版画に描かれた熱田の風景」の展示を行った。来場者アンケートの回答で、展示について「よかった」と回答している割合として、第29回は40人中33人の82.5%、第30回は37人中36人の97.3%であった。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	半年に1回展示替えを行い、テーマもその時注目されているものを選んだり、一つ一つの作品にも丁寧な解説をつけるなど、来場者に興味を持って分かりやすく見てもらうよう工夫を凝らしている。アンケートからは前記の内容を踏まえた好評を多数いただくが、その一方で、この取り組みをもっと多くの人に知ってもらってはどうかとの声もいただく。今後は広報の仕方についても検討をしていきたい。

状況を示す写真や資料等



展示替えの様子①



展示替えの様子



第29回展示「名古屋の展覧会」の様子



第30回展示「浮世絵版画に描かれた熱田の風

評価軸③-17

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度		令和7年度
項目		現在の状況
志段味古墳群歴史の里の保存整備		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 平成26年度～

支援事業名 市単独事業等

計画に記載している内容 古墳群と河岸段丘など自然環境を保存活用すると共に、志段味古墳群全体の保存の為、未指定古墳の追加指定及び整備を実施していく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

平成26年度の志段味古墳群史跡指定後、各古墳の整備を行い、平成31年4月にはガイダンス施設「体感！しだみ古墳群ミュージアム」がオープンした。今後も引き続き案内板、サイン等の整備・維持管理、および古墳等の整備を実施していく。令和3年度には白鳥5号墳・7号墳が史跡に追加指定され、令和3・5年度に公有地化を行った。令和6年度より、今後の整備方針を検討するため、東谷山山麓の文化財を対象とした悉皆調査を進めている。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

☒計画どおり進捗している
☐計画どおり進捗していない

古墳整備箇所等について定期点検を実施しているが、劣化し、補修が必要な個所が発生しており、順次対応を進めている。

状況を示す写真や資料等

大久手3号墳 墳丘 補修前(R6.10)



大久手3号墳 墳丘 補修後(R8.3.16)



評価軸③-18

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和7年度 現在の状況
志段味古墳群歴史の里の公開活用			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成26年度～		
支援事業名	市単独事業等		
計画に記載している内容	志段味古墳群のガイダンス施設である「体感！しだみ古墳群ミュージアム」を中心とした公開活用事業を行っている。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
平成31年4月にガイダンス施設「体感！しだみ古墳群ミュージアム」がオープンし古墳群の周知を行ってきた。活用事業として令和3年度～令和5年度は埴輪はこび体験、令和6年度は弓・矢じりづくり体験、令和7年度は講座「埴輪づくりの謎を探る」を実施した。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	引き続き、体感！しだみ古墳群ミュージアムをはじめとした志段味古墳群歴史の里へ多くの方に来訪していただけるよう、様々なイベントを実施していく必要がある。		

状況を示す写真や資料等

体感！しだみ古墳群ミュージアム イベント



講座「埴輪づくりの謎を探る」



講座中の拓本体験の様子

評価軸③-19

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和7年度 現在の状況
伝統的建造物群保存地区保存事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 平成27年度～

支援事業名 国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金

計画に記載している内容 有松伝統的建造物群保存地区内の建造物に対して助成等を実施していく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

【主な経緯】

- ・平成28年7月 国の重要伝統的建造物群保存地区に選定
- ・令和3年11月 市指定有形文化財「岡家住宅」の土地・建物取得
- ・令和3年度 「有松伝統的建造物群保存地区防災計画」策定
- ・平成29年度～令和7年度
伝統的建造物の外観及び構造耐力上主要な部分の修理に対する補助、伝統的建造物以外の建造物の外観修景に対する補助を実施。令和7年度の補助実績はなし。

【これまでの取組:伝建地区に修理修景補助件数】

年 度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
実績数	2	3	4	2	4	なし	2	なし	なし

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- ☒計画どおり進捗している
☐計画どおり進捗していない

地区内の町並みの維持・保全を図るため、今後も経済的・技術的支援を実施していく。また、支援内容についても、物価・人件費高騰等の実情に沿った内容となるよう検討・見直しを行う。

状況を示す写真や資料等

地区内における建物修理の事例



地区内における建物修景の事例



評価軸③-20

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和7年度 現在の状況
歴史的町並み保存事業(有松地区)			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 昭和58年度～

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 歴史的景観を保存するため、町並み保存地区および伝統的建造物の指定を行うとともに、修理・修景基準に沿った保存地区内の建造物の修理・修景等に対する技術的支援及び経済的支援(助成)を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

伝統的建造物は修理基準に、伝統的建造物以外の建造物は修景基準に、門塀で外観を修景基準にそれぞれ基づいた工事に伴う費用の一部を助成し、町並みを維持・保全して良好な景観を守っている。令和7年度の助成実績は4件。保存地区において建築行為等を行おうとするものに対し届出を要請し、この際に専門的・技術的な指導・助言を行う。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	保存地区内の町並みの維持・保全のため、今後も経済的・技術的支援を実施する。

状況を示す写真や資料等

◆有松町並み保存地区
東海道沿いには、今なお豪壮な絞商の主屋を始めとする数多くの伝統的な建物が残り、有松絞りによって繁栄した往時の様子を今に伝える。

①【補助件数】 ※平成28年度以降の伝統的建造物群保存地区内の伝統的建造物でも、町並み補助金を使用したものは件数に計上
※補助金のうち、事業活動助成については除く

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	累計(昭和58年～)
伝統的建造物の修理・修景	0	0	4	2	3	137
伝統的建造物以外の建造物の修景	0	0	0	0	0	48
必要物件の整備	0	0	0	0	1	1
計	0	0	4	2	4	186

②【指導・助言件数(届出件数)】※伝統的建造物群保存地区内の現状変更は許可制のため除く

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
伝統的建造物の修理・修景	0	0	0	1	0
伝統的建造物以外の建造物の修景	0	0	0	0	0
必要物件の整備	0	0	0	0	0
その他の建築行為	8	5	9	7	8
計	8	5	9	8	8

評価軸③-21

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和7年度 現在の状況
有松の歴史的建造物活用事業者支援		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 令和4年度～

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 「有松地区における古民家を活用したまちづくりの考え方」に共感した、市と連携して主体的に活動する民間企業(連携事業者)とともに、有松の古民家利活用の事業の立ち上げを支援する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

【主な経緯】

令和4年度 有松地区におけ歴史的建造物活用調査等業務

令和5年度 「有松地区における古民家を活用したまちづくりの考え方」の策定

民間企業との連携協定締結(令和5～6年度の2か年にわたり、事業立ち上げ支援を実施)

令和6年度 連携事業者を中心として、令和7年2月に古民家利活用事業を進めるまちづくり会社を設立

【令和7年度の取組み】

○令和7年2月に設立されたまちづくり会社を中心として、有松地区内における古民家利活用事業を推進。

○伝統的建造物を高付加価値化して活用する場合に利用可能な、高付加価値化改修・整備事業補助金を新設。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

■計画どおり進捗している
☐計画どおり進捗していない

連携事業者や物件所有者と密に連絡・調整をとりつつ、地元住民の理解も得ながら慎重に計画、設計・工事を進める。

状況を示す写真や資料等

古民家利活用事業スキーム図



『有松地区における古民家を活かしたまちづくりの考え方』に基づく事業を展開

まちづくり会社役員による事業計画プレスリリース

地区内における高付加価値化補助実績件数



年度	件数
R7	1
合計	1

※令和7年度に補助新設。

評価軸③-22

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和7年度 現在の状況
市指定有形文化財岡家住宅の保存活用		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 令和2年度～

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 有松紋商の繁栄を伝える市指定有形文化財の岡家住宅を整備し、日本遺産のガイダンス施設とすることで、有松地区の市民意識の向上及び魅力向上施設として保存活用していく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

【主な経緯】

平成28年7月 国の重要伝統的建造物群保存地区に選定

令和元年度 市による、岡家住宅の暫定公開を開始

有松が日本遺産に認定

令和3年度 市が、日本遺産ガイダンス施設として岡家住宅の土地・建物を取得

令和5年度 保存活用計画の策定

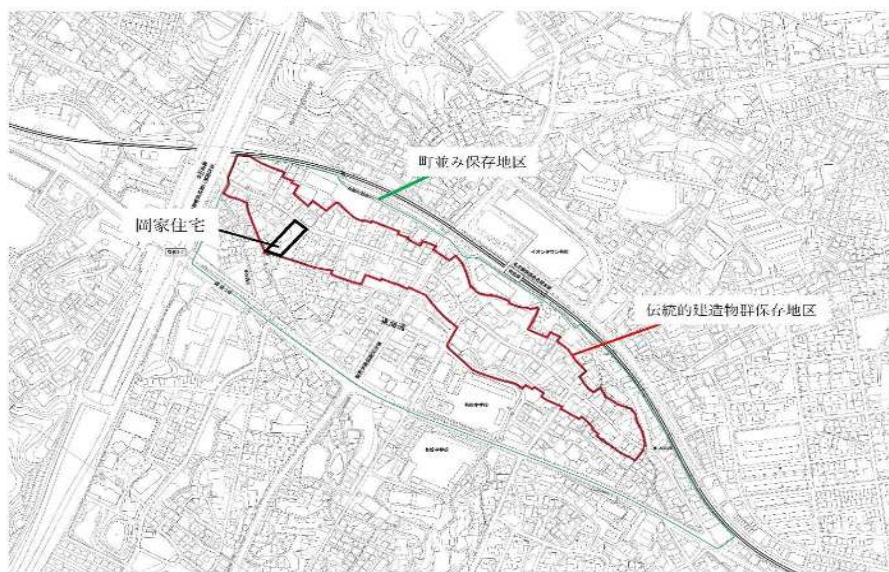
【令和7年度の取組み】

令和6～7年度 岡家住宅の整備・活用に向けた基本計画策定

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	令和7年度策定の基本計画に基づき、文化財建造物の実施設計及び展示基本計画策定を実施するとともに、便益施設等の検討を進めていく。

状況を示す写真や資料等

岡家住宅の位置



岡家住宅の様子



本格整備・公開前の暫定公開として、毎週土日に建物内部を公開中。

評価軸③-23

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和7年度 現在の状況
指定文化財(建造物・史跡等)の保存修理事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 昭和47年度～

支援事業名 市単独事業 ※国・愛知県指定文化財は、文化財保存事業費関係国庫補助・愛知県文化財保存事業費

計画に記載している内容 指定文化財であるお寺、神社、個人住宅などの歴史的建造物や史跡・名勝といった地域の歴史遺産の保存修理や管理に要する経費について、補助金を交付する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

名古屋市指定文化財等の保存管理・保存継承のために補助金を交付することで、地域の貴重な文化財の保存が図られ、歴史的風致の維持向上に寄与している。
 (令和7年度市指定文化財等の保存修理事業として3件補助を実施)
 (令和4年度実績:4件 令和5年度実績:4件 令和6年度実績:3件)

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

■計画どおり進捗している
☐計画どおり進捗していない

文化財(天然記念物)の維持が後継者不足などにより年々難しくなっている。

状況を示す写真や資料等

○令和7年度補助金交付一覧

名称	種別	行為
深沢第3号墳	史跡	危険木伐採、除草、樹木剪定、薬剤散布
宝珠院のイヌナシ	天然記念物	枯枝の除去、生育に悪影響を及ぼす枝の除去、害虫駆除、剪定
相応寺本堂	建造物	防災設備工事

○深沢第3号墳保存管理事業



評価軸③-24

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和7年度 現在の状況			
指定有形文化財(無形文化財、有形・無形民俗文化財)の保存活用の支援			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手			
事業期間	昭和47年度～					
支援事業名	市単独事業 ※文化遺産を活かした地域活性化事業・愛知県文化財保存事業費、文化財保存事業費関係国庫補助金					
計画に記載している内容	指定文化財である山車祭り、棒の手など地域の民俗芸能・伝統行事の継承やそれらで用いる山車などの保存修理に対して補助を行う。					
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で						
・市内の無形文化財や民俗文化財の継承のために必要な用具の修理・新調および練習等に係る補助を行うことで、民俗芸能・伝統文化の継承や後継者の育成を行うことができた。 ・補助件数 令和7年度23件(山車の保存・修理等に対する補助18件(うち後継者育成事業に対する補助5件)、山車以外の民俗文化財等に対する補助5件)						
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)					
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	専門家による現地での現況確認・修繕方法の指導などを通じて、文化財の保存技術の向上を図っていく。					
状況を示す写真や資料等						

○福祿寿車(若宮祭り)
上山修理事業(令和7年度)



○布袋車(有松祭り)
幕類復元新調事業(令和7年度)



評価軸③-25

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和7年度 現在の状況																																								
歴史的建造物の登録・認定			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手																																								
事業期間	平成23年度～																																										
支援事業名	市単独事業																																										
計画に記載している内容	名古屋市都市景観条例に基づき、市内に残る身近な歴史的建造物を地域建造物資産として登録・認定するとともに、その保存活用に向けた技術的支援、経済的支援に取り組む。																																										
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で																																											
市内に残る身近な歴史的建造物を地域建造物資産として登録・認定し、登録資産は計250件、認定資産は計130件(ともに累計)となった。 登録・認定件数は順調に増えており、身近な歴史的建造物を大切にするという意識も生まれ、登録・認定することにより歴史的建造物の滅失に歯止めをかける効果を実感することができた。																																											
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)																																									
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		名古屋市総合計画2028の目標では、概ね1年間に7件程度の新たな指定件数(登録及び認定、景観重要建造物を合わせて)を目標としているため、市民、なごや歴まちびと、関係機関等と連携し、身近な歴史的建造物の情報収集体制を強化していく。																																									
状況を示す写真や資料等																																											
■登録及び認定件数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>登録</th> <th>認定</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H23～R6</td> <td>245</td> <td>119</td> <td>364</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>5</td> <td>11</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>250</td> <td>130</td> <td>380</td> </tr> <tr> <td>(うち登録→認定)</td> <td>80</td> <td></td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>(うち抹消)</td> <td>33</td> <td>6</td> <td>(39)</td> </tr> </tbody> </table> 登録・認定、技術的・経済的支援の推移 ※認定の抹消件数には、認定→景観重要になった1件を含む。 ※登録→認定になった件数及び抹消の件数も含む。 ■技術的支援の実績件数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H23～R6</td> <td>97</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>104</td> </tr> </tbody> </table> ■経済的支援の実績件数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H23～R6</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>49</td> </tr> </tbody> </table> ■登録・認定地域建造物資産(令和6年度登録・認定物件(一部)) 登録 第248号 金山神社(中村区長戸井町) 認定 第125号 中村家住宅(西区那古野) 認定 第126号 CBC会館(中区新栄)				年度	登録	認定	合計	H23～R6	245	119	364	R7	5	11	16	合計	250	130	380	(うち登録→認定)	80		80	(うち抹消)	33	6	(39)	年度	件数	H23～R6	97	R7	7	合計	104	年度	件数	H23～R6	41	R7	8	合計	49
年度	登録	認定	合計																																								
H23～R6	245	119	364																																								
R7	5	11	16																																								
合計	250	130	380																																								
(うち登録→認定)	80		80																																								
(うち抹消)	33	6	(39)																																								
年度	件数																																										
H23～R6	97																																										
R7	7																																										
合計	104																																										
年度	件数																																										
H23～R6	41																																										
R7	8																																										
合計	49																																										

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和7年度 現在の状況
なごや歴まちびとの派遣			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 平成23年度～

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 地域建造物資産に登録・認定された歴史的建造物の所有者からの申請に基づき、名古屋歴史的建造物保存活用推進員(なごや歴まちびと)が保存・活用に関する技術的支援を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

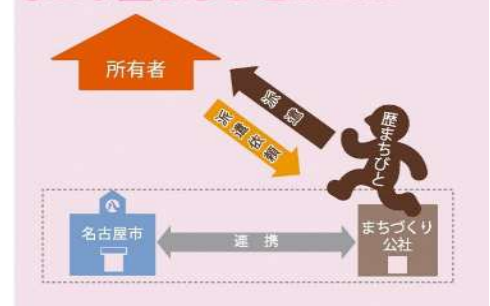
登録地域建造物資産等の歴史的建造物の所有者に対し、名古屋歴史的建造物保存活用推進員(なごや歴まちびと)の派遣を行い、所有者の相談に応えることで歴史的建造物の保存に繋がっており、歴史的風致の維持向上に寄与している。
【なごや歴まちびと登録人数】令和7年度末現在:56人 【派遣件数】令和7年度:7件

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	スキルアップ講座を実施なごや歴まちびとの知識・技術を向上させながら、所有者からの様々な相談に対応していくことで、今後も歴史的建造物の保存(技術的支援)に力を注いでいく。

状況を示す写真や資料等

■派遣制度の仕組み

なごや歴まちびと派遣制度



■過去の主な相談内容

- ・屋根、土蔵、母屋、門、塀の補修方法について
- ・活用に向けた修理計画について
- ・耐震診断について
- ・活用検討のための調査、間取り図作成 について

など

■建物調査・相談の様子(技術的支援)

令和7年6月2日、支援先の下見時の写真



令和7年6月9日、支援先の下見時の写真



評価軸③-27

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和7年度 現在の状況
史跡名勝標札、史跡散策路案内板等の管理・設置			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和39年度～		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	史跡名勝標札、史跡散策路案内板などの設置事業を行うとともに、こうした歴史関係の案内板を活用し、より身近な歴史に親しむ環境を整える。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
史跡や名勝などの所在地にその由緒などを案内する標札として「史跡名勝標札」を市内に312基(工事などで一時撤去中の標札を含む)設置している。令和7年度は、標札の新設や説明文の修正や経年劣化による文字の剥がれ等を塗り替えや補修を行った。 また、各史跡等を連絡させた散策路コースを設定し、市内80コース(1区あたり3～6コース)の各起点にイラストでコース全体や史跡を紹介した「史跡散策路」案内板を、コース途中には誘導標識を設置し、文化財保護意識の普及啓発やウォーキングイベント等での活用を図ったほか、案内板については補修等を実施した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		史跡名勝標札の新設のほか、設置後10年以上経過し、文字や塗装等の劣化が見られる史跡名勝標札や案内板の補修も、計画的に進めている。	
状況を示す写真や資料等			

【案内板新設等件数】

種別	令和5年度	令和6年度	令和7年度
新設	1	0	1
再設置	0	1	1
補修・訂正	3	3	2
作り直し	0	0	0
完全撤去	0	1	0
設置累計	312	311	312

「史跡名勝標札」の新設〈中区 徳川光友生誕地〉

【施工前】

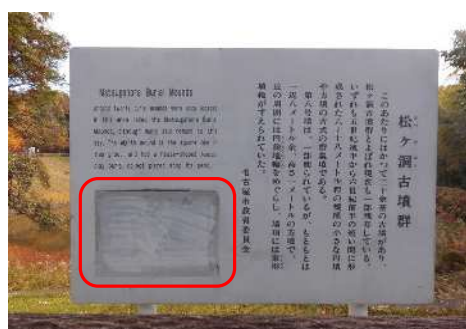


【施工後】



「史跡名勝標札」の補修〈守山区 松ヶ洞古墳群〉

【施工前】



【施工後】



表記板左下に貼付してあった設置当時の「古墳分布図」が劣化により剥落。最新の「古墳分布図」を貼付して補修。

評価軸③-28

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和7年度 現在の状況			
伝統産業若手技術者育成事業助成			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手			
事業期間	平成5年度～					
支援事業名	市単独事業					
計画に記載している内容	本市の伝統産業に従事する人材の定着の促進を図るためその若手技術者を育成する市内企業に対して補助金の交付を行う。					
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で						
「伝統産業若手技術者育成事業費補助金交付要綱」に基づき、名古屋伝統産業協会会員団体に所属する市内企業に対し補助金を交付した。(同協会は昭和54年に市内伝統産業の産地組合により設立。構成:12業種11団体) ・令和7年度補助金交付件数:7件 (・令和5年度補助金交付件数:7件 ・令和6年度補助金交付件数:7件)						
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)					
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	今後も伝統産業を担う人材の支援を通じ、産業の伝承・発展を促進していく。					

状況を示す写真や資料等

【名古屋の伝統産業】

・有松・鳴海絞 ・名古屋節句飾 ・木桶 ・尾張七宝 ・名古屋桐箆笥 ・名古屋扇子
 ・名古屋提灯 ・名古屋仏壇 ・名古屋友禅 ・名古屋黒紋付染 ・和蠟燭 ・尾張仏具

【補助金交付企業の活動例】



◀【尾張仏具】

江戸期より名古屋城下において、下級武士の内職として興る。木製漆塗り製品を中心とし、製造におけるそれぞれの作業が独立した職人たちによって行われる点が特徴。仏具以外にも神具、祭礼具などの製造も行う。



◀【尾張七宝】

19世紀にオランダ船がもたらした七宝焼の皿を研究し、銅の地金に金属線などを植え付けて下絵とし、釉薬を差す技法を考案した。その後、釉薬の改良や技法の発展により、19世紀後半には代表的な輸出工芸品となった。

評価軸③-29

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和7年度 現在の状況
歴史文化普及啓発事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成25年度～		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	歴史的建造物や文化遺産を活用して、名古屋独自の歴史や文化に根ざしたイベントを実施し、知られざる都市の魅力の再発見や情報発信を図る。		
定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で			
名古屋能楽堂などでの「まちなか芸披露」や、名古屋城や有松などでの「旅するなごや学」等の実施を通し、本市の歴史的建造物や文化遺産への市民の理解を深め、後世への継承へと繋げていくことにより歴史的風致の維持向上に寄与した。 令和7年度の歴史文化普及啓発事業は、10月25日(土)から11月16日(日)を中心に開催し、総参加者数は75,508人。 【令和7年度の主な実施事業】 〈まちなか芸披露〉市内各所での能・狂言・日本舞踊など、名古屋ゆかりの伝統芸能の公演の開催(8プログラム、全23回開催) ・新作日本舞踊「生きとし生けるもの」(名古屋能楽堂): 第一幕では名古屋日本舞踊協会・各流派の若手舞踊家によるJ-POP等の現代音楽での創作舞踊を披露、第二幕では7つの流派が垣根を超えて藤前干潟の自然をテーマにした新作日本舞踊ステージを披露 など 〈旅するなごや学〉名古屋の歴史や伝統文化に因んだ講座・ワークショップ及び名古屋の歴史や文化を訪ねるまち歩き等の開催(25講座、27コース) ・「『ゆらぎ』を用いたまちと建築のデザイン」(有松) ・「尾張藩主が歩いた名古屋城～名古屋城巡覧ルートをめぐる～」(名古屋城) など			
		実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		若年層を中心に新たな参加者の開拓を図るため、地域に残る文化・歴史資源を総合的に活用した伝統芸能の公演及び市内一円における多様なアウトリーチプログラム、若年層等をはじめとした新規参加者層向け新企画などを実施した。	
状況を示す写真や資料等			



まちなか芸披露:「新作日本舞踊『生きとし生けるもの』」
@名古屋能楽堂（令和7年11月8日）



旅するなごや学:「『ゆらぎ』を用いたまちと建築のデザイン」
@有松地区（令和7年11月2日）



旅するなごや学:「尾張藩主が歩いた名古屋城～名古屋城巡覧ルートをめぐる～」
@名古屋城（令和7年11月6日）

評価軸③-30

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和7年度 現在の状況
土曜日の教育活動の推進(「歴史体験学習」、「伝統産業体験学習」(有松絞り体験))			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成26年度～		
支援事業名	文部科学省学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金		
計画に記載している内容	子どもたちが学校で学んだ知識や技能を生かし、実生活における課題発見・解決に向けて学ぶ体験活動の充実を図る。また、地域や民間事業者等の協力を得て、体験を重視した学習プログラムをモデル実施する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
名古屋土曜学習プログラム実施校40校のうち、7小学校区において、合計7回の「歴史体験学習」もしくは「伝統産業体験学習(有松絞り体験)」を実施した。参加した子ども達からは、「歴史の学びを深められた」「上手に作ることができた」といった感想があった。 「歴史体験学習」として、市内1小学校区で古墳時代を体感する勾玉づくり体験を実施。地域人材として、土曜学習コーディネーター3人、いきいきサポーター4人、講師・助手9人の協力を得て、51人の児童が体験学習に参加した。 「伝統産業体験学習」として、市内6小学校区にて伝統工芸品「有松絞」の文化・魅力に触れる絞り体験を実施。体験を通じ認知及び地域の誇りを醸成し、歴史的風致の維持向上に寄与した。 【実施校及び参加者数】 ①なごや小学校 65名 ②八熊小学校 30名 ③牧野小学校 24名 ④荒子小学校 36名 ⑤西築地小学校 11名 ⑥中小田井小学校 43名 全6校、参加者数 209名			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	令和7年度は7小学校区において合計7回実施した。今後も歴史体験学習・伝統産業体験学習を通じて名古屋の伝統文化、魅力に触れてもらうことを目的に、他小学校区での開催も検討しながら計画的に実施していく。		
状況を示す写真や資料等			
 歴史体験学習の様子  伝統産業体験学習の様子  歴史体験学習の様子  伝統産業体験学習の様子			

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和7年度 現在の状況
文化財調査、指定保存管理(活用)計画の策定、埋蔵文化財の取り扱いに関する方針など		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

計画に記載している内容 従来から行ってきた文化財の調査及び指定、個々の有形文化財の修理費用や無形の文化財などの後継者育成に対する補助制度の充実化、また重点区域外の国指定の文化財の保存管理について、文化財保存活用計画の策定に向けた課題を整理していく。また埋蔵文化財について、遺跡分布図の改訂、遺跡範囲の確定を通じた遺跡の保護保存、市内の開発行為において埋蔵文化財を周知していく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・かつての農村地域に伝わる山車行事(比良祭り・牛立天王祭・戸田祭り・一色まつり・大森天王祭)について調査事業を実施した。
 ・国史跡のうち令和5年度から開始した史跡大高城跡 附 丸根砦跡 鷺津砦跡の保存活用計画の策定を継続するとともに、令和6年度に着手した、愛知県が進める史跡断夫山古墳の保存活用計画の策定事業に協力した。
 ・埋蔵文化財発掘調査成果等を受け、周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)の名称変更及び範囲変更等を行うとともに、遺跡地図の修正・周知を実施した。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	・文化財調査、文化財指定を通じて、文化財を後世に引き継いでいく。 ・周知の埋蔵文化財包蔵地における「古墳」「窯」等の文化財保護法にかかる埋蔵文化財発掘届出・通知の明確な範囲の検討を進める必要がある。

状況を示す写真や資料等

【名古屋農村部の山車行事調査】 調査期間 令和7年度～令和9年度

・比良祭り(西区)、牛立天王祭・戸田祭り・一色まつり(中川区)、大森天王祭(守山区)について調査事業を実施した。

【令和7年度の比良祭り(西区)】



【山車幕の写真撮影(左)と調査(右)】



【史跡大高城跡の保存活用に関する意見聴取のためのイベント実施状況】



【東谷山(守山区)における遺跡分布の実施(写真は測量作業の様子)】



評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

項目		評価対象年度	令和7年度 現在の状況
・防災・防犯に関する事業(防火・防犯のための施設設備の設置・改修等) ・文化財防火デー等の防災訓練の取組			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	指定文化財に設置された消防設備の確認や防火訓練、防犯設備や防犯体制についての確認、志段味地区の古墳の安全管理施設の整備等、文化財パトロール員の巡視等		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
文化財施設・所有者のうち、文化財防火デーに合わせて11施設を抽出し、市消防署及び自衛消防団と協力・連携して防災訓練及び消防施設・防犯設備の査察を実施している。 また、市文化財パトロール員を活用し、志段味地区の古墳を含めた市内に存する文化財を定期的に(年3回)巡視し、災害等の報告を受けた場合はすぐに対応して文化財の保護・管理に努めている。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	指定文化財建造物の件数が非常に多いため、順次ローテーションを図りながら巡視を継続し、防犯設備の充実を働きかける必要がある。		
状況を示す写真や資料等			

文化財防災デー(令和8年1月26日)における防災訓練の実施

<徳興山建中寺> 【放水訓練】



<龍蟠山瑞泉寺> 【放水訓練】



【令和7年度 文化財防災デー消防訓練実施施設(計11施設)】

名古屋市東山総合公園東山植物園温室前館(千種区)、徳興山建中寺(東区)、黄雲山光音寺(北区)、善光寺別院願王寺(西区)、名古屋城(中区)、八事山興正寺(昭和区)、熱田神宮上知我麻神社(熱田区)、宗教法人富部神社(南区)、龍蟠山瑞泉寺(緑区)、宗教法人明徳寺(名東区)、島田神社(天白区)

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

項目		評価対象年度	令和7年度 現在の状況
文化財に関する普及・啓発の取組、防災訓練の取組、民間団体への助成。支援や連携・協力した取組など			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	・伝統行事など民間団体との連携、支援の実施。 ・なごや歴史探検アプリの活用。 ・志段味古墳群歴史の里の公開活用。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
・名古屋の歴史や文化の魅力を紹介する観光情報アプリ「なごや歴史探検」の運用を図った。 ・市内の無形文化財や民俗文化財の継承のために必要な用具の修理・新調および練習等に係る補助を行うことで、民俗芸能・伝統文化の継承や後継者の育成を行うことができた。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		専門家による現地での現況確認・修繕方法の指導などを通じて、文化財の保存技術の向上を図っていく。	
状況を示す写真や資料等			

○アプリ「なごや歴史探検」 期間内登録者数(令和7年4月～令和8年3月)

新規登録者数 6,821(内訳:日本語6,324、英語211、中文簡体74、中文繁体188、韓国語24)

○無形民俗文化財の普及啓発

名古屋西部に伝わる神楽屋形行事を紹介した(協力:新茶屋神楽保存会)。

○市内遺跡の出土遺跡展示

市内遺跡の出土遺物について、「体感!しだみ古墳群ミュージアム」で展示し、展示説明会を開催した。

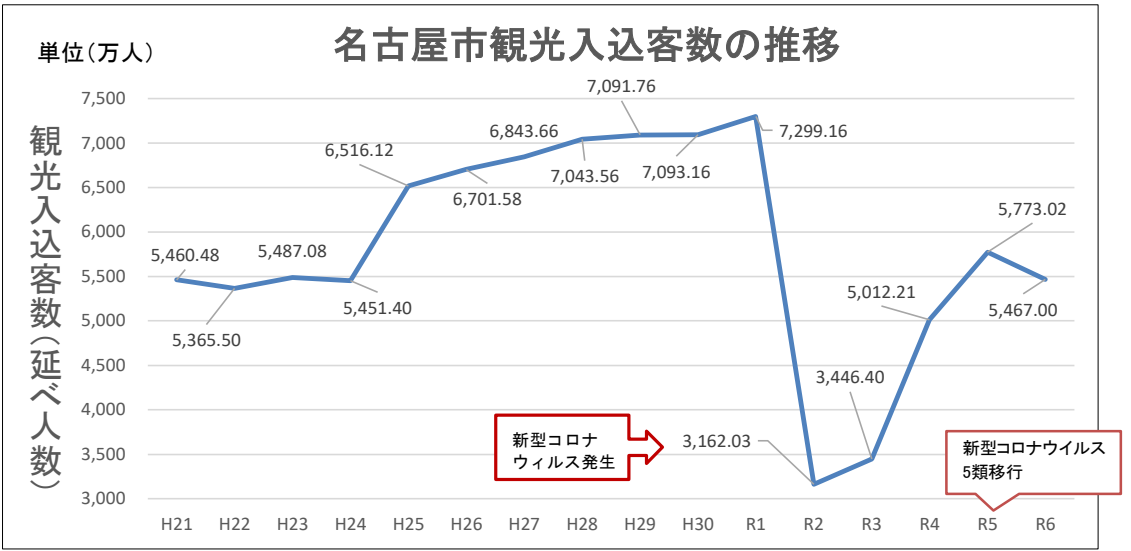
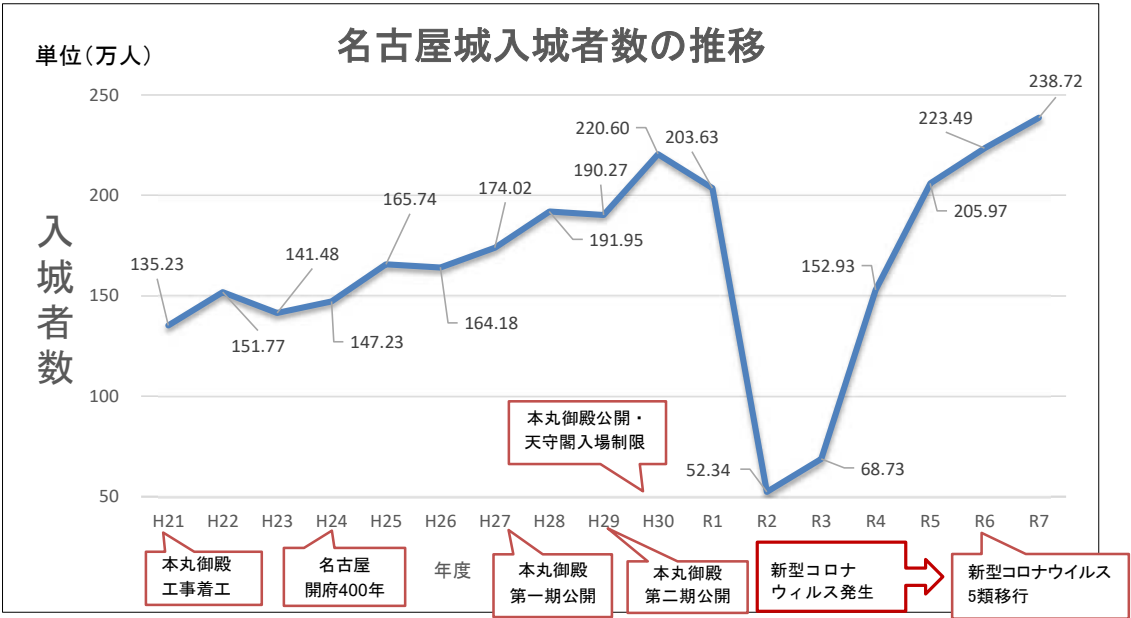


評価軸⑤-1

効果・影響等に関する報道

		評価対象年度	令和7年度
報道等タイトル		年月日	掲載紙等
新聞・WEB記事等			
築100年 榎木館を彩る生け花 東区で假屋崎省吾さんが個展		令和7年4月10日	中日新聞
江戸期の嫁入り道具、国宝の70件が10年ぶり一堂に 名古屋・徳川美術館		令和7年4月12日	中日新聞
戦前の複製法服を着て「虎に翼」の世界へ ロケ地の名古屋市政資料館		令和7年4月27日	中日新聞
「ポケふた」ゲットだぜ! 愛知の5市に設置、名古屋はあのキャラ		令和7年6月12日	朝日新聞
官民連携まちづくり 取り組み年度内決定 シンポで見通し示す		令和7年9月23日	中日新聞
有松絞りおしやれに染めた 緑区で学生・子どもたちが体験		令和7年10月8日	中日新聞
「名古屋まつり」18日に開幕 「豊臣兄弟!」仲野太賀さん、小栗旬さんがパレード参加		令和7年10月17日	中日新聞
名古屋城の本丸除く3エリア、入場無料に 11月1日から実証実験		令和7年10月27日	中日新聞
学ぶ 名城大 建築遺産 魅力を動画に 学生の視点 地域に刺激 名古屋・東区と連携 10年目		令和7年11月28日	中日新聞
文化のみち二葉館 開館21周年で催し		令和8年1月7日	中日新聞
「わらぼっち」に包まれて 徳川園で冬ボタンみごろ		令和8年1月12日	朝日新聞
福よせ雛、今年はパーティー 名古屋の二葉館にフотスポット		令和8年2月22日	中日新聞
名古屋城二の丸「余芳」周辺整備ほぼ終了 大名庭園の趣 200年ぶり復元 最大5トンの石150個 絵図に忠実		令和8年3月19日	中日新聞
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
計画に位置付けられた事業のうち、特に新たな展開のあった事業や歴史まちづくりに関わるイベント等について、報道により市民の関心の向上及び施設の入館者・催事の参加者数の増加につながったと考えられる。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
□計画の進捗に影響あり ■計画の進捗に影響なし		新聞等によるメディアの効果は大きいため、今後も積極的にメディアを通じて市の事業を報道していきたい。	
状況を示す写真や資料等			

評価軸⑥ その他(効果等)	
項目	評価対象年度 令和7年度
観光客数の動向について	
計画に記載している内容	定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付
令和2年3月より始まったコロナ禍も落ち着きを見せ、名古屋城入城者数、名古屋市観光入込客数共におおむね回復傾向にある。 令和7年度の名古屋城の入城者数は約238万人と、1989年度の約389万人に次ぐ過去2番目を記録しており、今後も増加することが見込まれる。市全体の観光入込客数については、令和6年度は約5467万人となっており、前年と比較し減少したものの、コロナ禍以降の回復の傾向にある。(なお、令和7年度の数値は10月に公表予定) 減少要因としては、コロナ禍の外出や移動の自粛によるライフスタイルや価値観の変化、旅行に行かない過ごし方の定着や、外出しなくともSNS や動画サイトでバーチャル体験等が可能になったことが考えられる。また、物価高騰による宿泊費をはじめとした旅行費用の増大も旅行控えに影響している。	
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☐ 計画の進捗に影響あり ☒ 計画の進捗に影響なし	コロナ禍の影響はほぼなくなったと考えられ、新たに策定された名古屋市総合計画2028を基に様々な施策を進めていくことで、名古屋城を始めとした、名古屋市全体の観光客数の増加につなげていく。
状況を示す写真や資料等	



出典: 令和6年名古屋市観光客・宿泊客動向調査(令和7年10月公表)
⇒ 観光庁が定める「観光入込客統計に関する共通基準(平成25年3月改訂)」に基づき
平成29年より調査期間を年度から暦年に変更。

法定協議会等におけるコメント

(様式2)

評価対象年度	令和7年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称: 名古屋市歴史的風致維持向上計画懇談会	
会議等の開催日時: 令和8年5月12日(火)	
(コメントの概要) <評価シート全体について> ○各評価シートのグラフや表について、時系列を統一した方が良い。 ○進捗状況にて「計画どおり進捗している」と印があるが、当該評価年度の目標や計画が、その評価シートから分かりにくいとため、目標・実績・評価が1枚にまとまっていると良い。 ○一部、図面が不鮮明な箇所があったため、もう少し鮮明になると良い。 <個別のシートについて> ○評価軸③-17 一部誤植あり、要修正。 ○評価軸⑤-1 一部表の体裁について、要修正。 <その他意見> ○各々の事業は、まちづくりの担い手を生むきっかけとなる重要な取り組みであり、この事業による波及効果が十分に発揮されていると評価することができる。さらに整備事業等の完了後も末永く市民の財産となるように、完成後の公開方法や活用方法、観光PRの取り組みなどが期待されます。今後も、ロケツურიリズム推進との連携を図るなどして、施設の利活用につなげていただきたい。 ○また、今後想定される災害に対して、消防等の地元組織との連携や日ごろの防災訓練の継続は欠かせません。文化財を公開するにあたり盗難等の被害を防ぐために、展示品の盗難対策の強化や機械警備の導入を進めるなど、継続して取り組んでいただきたい。	
(今後の対応方針) ○個別のシートに関する誤字脱字等については、修正済み。 ○些細な事業実績についてもシートに記載することで、事業の進展状況をより詳細に可視化していくことを心掛ける。 ○事業の内容を明瞭に伝えていくため、報告の写真等は明瞭なものになるよう心掛けていく。	